

## 魚津タグラグビー大会ルール・レフリング

	魚津大会ルール	レフリングの要点
1	<p>ビブスを着用しているチームのフリーパスで試合を開始する。                      予選リーグは前半5分ー後半5分(ハーフタイム2分)とし、前半と後半でコートチェンジを行う。                      ※決勝トーナメントは前半6分ー後半6分(ハーフタイム2分)                      後半開始のフリーパスは前半のフリーパスでないほうのチームが行う。</p>	<p>・服装、タグの装着状態などを点検し挨拶を済ませてから開始する</p>
2	<p>フリーパスとは、ボールを持ったプレイヤーがその位置から動かずに、自分より後方のプレイヤーにパスをすることである。                      そのとき相手チームは必ず3m下がらなくてはならない。</p>	<p>・双方が体制を整えるのを確認してから開始の合図をする                      ・最初のパスを受けるプレイヤーは2m以内に位置すること                      ・最初のパスは明確に手から離れるパスであること</p>
3	<p>試合開始はレフリーの笛の合図の後コートセンターからのフリーパスにて行う。                      トライ後の再開はコートセンターからトライを取られたチームのフリーパスにて行う。</p>	<p>・いずれの場合も必ずレフリーの合図(笛の合図とは限らない)のあとでフリーパスをする。また相手チームは最初のパス(ボールが手から離れる)が終わるまで動いてはいけない</p>
4	<p>ボールを持ったプレイヤーは前後左右どの方向にも動くことができる。</p>	
5	<p>守るチームのプレイヤーは相手チームのボールを持つプレイヤーのタグを取ることができる。</p>	
6	<p>タグを2本ともつけたプレイヤーだけがプレーに参加でき、またトライすることができる。2本のタグを付けていないプレイヤーがボールを持った場合は反則とし、その地点から相手のフリーパスでゲームを再開する。トライ直前にタグを取られたプレイヤーがそのままインゴールに入ってもトライは認められない。同様にインゴール内でのパスも認められない。ゴールラインから5m地点まで戻って、フリーパスで再開する(直前のタグの回数から)。</p>	<p>・タッチジャッジはゴールライン近くでプレーが行われたら先回りをしてタグかトライかの判定に協力する                      ・ゴールライン手前5m以内でのプレー再開はしない</p>
7	<p>得点は、ボールを持っているプレイヤーが相手インゴールに駆け込むことによって得られる。ゴールラインはインゴールであり、タッチインゴールおよびデッドラインはタッチである。トライは立ったままで行わなければならない。その際、両足はインゴール内に入っていないなければならない。片足または両足がインゴールに入っていない状態でのトライは認められず、ゴールラインから5m地点まで戻って、フリーパスでゲームを再開する。</p>	<p>・スライディングによるトライは禁止</p>
8	<p>タグを取ったプレイヤーは、タグを相手に手渡して返すまでプレーすることができない。また取られたプレイヤーは、パスをしてから取られたタグを返してもらい腰に付けるまでプレーすることができない。</p>	<p>・タグを取ったプレイヤーは1mくらい離れ、パスをするのを妨げてはいけない</p>

	魚津大会ルール	レフリングの要点
9	ボールを持ったプレイヤーは、タグを取られないように手で押さえたり、体を回転させて防ぐことは認められない。	・半回転でも認めない場合が多いが、半回転の後パスをするのであれば可
10	タグを取られたら直ちに前進をやめ、ボールを離さなければならない。目安は3歩以内だが、すぐに前進をやめられたのに故意に前進を続けたとレフリーが判断した場合は、たとえそれが3歩いなくてであったとしても反則とする。(途中で気づき戻る行為をすればこの限りではない。)	・トラベリング: 戻る動作が見られれば少し甘めでも可 ・手をバタバタさせる動作で示す
11	試合中、相手プレイヤーと体がぶつかるプレーをすることはできない。具体的には、タグを取りにきた手を払うこと、手で相手を突くこと、相手を捕まえること、体当たりをすることなどであり、手を広げてのディフェンスも禁止とする。また、タグを取りにいく際に自分から遠い側のタグを取りにいくことにより、相手プレイヤーの前進を妨害し接触を誘発するタグの取り方も禁止する。	・チャージング: 攻撃側が起こしたのかディフェンス側が起こしたのか見極めが大事になる ・片方の手のひらをもう一方の手のこぶしでたたたく動作をする
12	一切のキックは禁止し、地面に転がったボールを屈むなどして立ったまま手で拾わなくてはならない。	・スライディングや座り込んだり膝をついた状態でボールを拾うことは禁止
13	ボールは自分より前に投げることはできない。自分より前に投げた場合はスローフォワードとし、パスを受け損なって前に落とした場合はノックオンとする。スローフォワードやノックオンが起こっても、そのボールを相手が拾うなどした場合はアドバンテージ(相手チーム有利で続行)を適用して反則を取らないこともある。	・スローフォワード: ボールを投げる動作で示す ・ノックオン: 手を差し上げひじから先を前後に動かす動作で示す
14	タグを取られたプレイヤーの地点を基準として、守るチームはその地点より相手側でプレーすることはできない。(タグを取られたプレイヤーの地点とゴールラインに平行な位置まで戻ってからプレーに参加する。)	・タグを取られたプレイヤーがいる位置を基準に考える ・トラベリングとの関係をはっきりさせること
15	フリーパスからの最初のパスをもらうプレイヤーは、パスをする選手から2m以内にいないといけない。走りながらパスをもらう場合はそのスタートする地点を2m以内とする。	
16	前記8～15の禁止事項は反則となり、その地点から相手ボールのフリーパスとなるが、反則をしたチーム側のゴールラインから5m以内の反則の場合は5m地点でのフリーパスとなる。	
17	タグを3回取られると最後にタグを取られた地点から相手ボールのフリーパスとなる。	
18	タッチライン上はコートの外であり、それはインゴールにおいても同様である。ボールを持ったプレイヤーがタッチラインを踏んだ場合やタッチラインから出た場合、またボールがタッチラインに触れた場合やタッチラインから出た場合は、その地点の外から、その時点でボールを持っていたチームの相手チーム、もしくは最後にボールに触れたチームの相手チームのフリーパスとなる。タッチラインの外からのフリーパスはタッチライン上の地点よりも直角もしくは後方へのパスとする。	